

津山工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	国際コミュニケーション演習	
科目基礎情報							
科目番号	0040			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	機械・制御システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	各種行事の開催案内, 研修のテキスト等						
担当教員	小西 大二郎,中村 重之						
到達目標							
学習目的: 英語によるコミュニケーション能力を高めるとともに地球上の多様な文化や習慣等への理解を深める。国際的に活躍できる技術者としての自覚を育てる。							
到達目標 1. 英語で相手の考えを理解し, 自分の考えや専門的な知識・技術を分かりやすく説明, 伝えることができる。 2. 国際感覚を身に付け, その成果をまとめることができる。							
ルーブリック							
	優	良	可	不可			
評価項目1	技術者や一般市民など, コミュニケーションの対象者によらず英語で相手を理解した上で, 説明の方法を工夫しながら, 自分の意見や考え方をわかりやすく伝え, 十分な理解を得ることができる。	英語で相手を理解した上で, 説明の方法を工夫しながら, 自分の意見や考え方を伝え, 理解を得ることができる。	英語で効果的な手順・手段を用いて分かりやすく言える。	英語で効果的な手順・手段を用いて分かりやすく言えない。			
評価項目2	文化の違いや価値観の違いを理解し, 多面的な見方や考え方ができ, 「新しく得た情報」と「過去の知識」とを組み合わせる新しい発想がでる。	文化の違いや価値観の違いを理解し, 「新しく得た情報」と「過去の知識」とを関連付けながら考察できる。	「新しく得た情報」と「過去の知識」との関連付けができる。	「新しく得た情報」と「過去の知識」との関連付けができない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別: 専門 学習の分野: 自然科学系共通・基礎 必修・選択の別: 選択 基礎となる学問分野: 外国語・工学 本科目は専攻科学学習目標「(6) 校外実習, 先端技術特別講義や学協会への参加を通じて, 地域社会との連携を図るとともに, 地球的視点からものを見ることの大切さを理解する。」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の育成, F-3: 技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」であるが, 付随的には「B-2」にも関与する。 授業の概要: 本校が関係する国際交流事業に参加し, 今まで学習してきた知識や技術をもとに国際的な視野を拡げ, 英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。						
授業の進め方・方法	授業の方法: 本校の関わる国際交流事業へ積極的に参加して自己研鑽に努めるとともに, 参加後に指定された報告書を提出する。特別研究の一環として行う国際会議等での発表は, 本演習には該当しない。 成績評価方法: 行事の報告書(レポート)により評価する。評価は「合否」とし, 年度末の専攻科運営委員会を経て単位認定を行う。単位認定願の提出が必要である。						
注意点	履修上の注意: 本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。従って30単位時間の授業(演習)と授業以外に15単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス: 平素から異文化や英語についての関心を拡げるとともに, 本校が関係する国際交流事業に積極的に参加し努力することが大切である。2年間に亘って履修可能な科目である。 基礎科目 これまで学んできた科目全般, 特に英語 関連科目: 実践英語Ⅰ(専1年)・Ⅱ(専2), 技術英語講読(専1), 特別研究Ⅰ(専1)・Ⅱ(専2) 受講上のアドバイス: 主として, 社会と関わる授業となるので, 参加に際しては本校学生としての自覚を持って行動すること。安全には十分心掛けて行動すること。本科目の関係する国際交流行事は担当教員に確認すること。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	行事への参加 30 時間以上	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い, その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。			
		2週	本校の関わる国際交流事業への参加(発表の機会があれば積極的に行うこと)	様々な国の生活習慣や宗教的信条, 価値観などの基本的な事項について説明できる。			
		3週	行事に合計30時間以上参加し(複数の行事でも良い), 決められた報告書(レポート)を提出すること(移動時間は演習時間に含めない)。当該事業の参加報告を行った場合には, その発表資料で報告書の演習概要に代えることができる。	異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。			
		4週		それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。			
		5週					
		6週					

		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0